

第64回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和4年9月15日（木）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授
小谷野 和博	埼玉県中小企業団体中央会 会長
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授
讚井 将満	自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授
三村 喜宏	埼玉県商工会連合会 会長

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
高田 直芳	教育長
金子 直史	福祉部長
三須 康男	危機管理防災部長
山崎 達也	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
板東 博之	産業労働部長
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 国アドバイザーボード資料「新型コロナウイルス感染症後の20歳未満の死亡例に関する積極的疫学調査」の紹介について

- 子供の感染者については、医療機関で救急を受けられる体制の構築及び、きちんと様子を見られるような状況に置いておくことが大切である。（岡部委員）

イ 学校におけるマスク着用の考え方について

- 登下校集団の中に体調が悪い人がいるかどうかが一番のカギである。登下校中はマスクを着用しなくても、感染性は高くないと考える。（岡部委員・坂木委員）
- 子供たちに換気ができているかどうか等の判断は難しいので、「みんなできるときはマスクを付けましょう」などシンプルなメッセージが良い。（川名委員）

【県の対応】

- 児童生徒の健康観察に努めるとともに、適切なマスクの着脱ができるよう検討する。

ウ 新たな段階への移行に向けた療養の考え方について

- 療養期間の短縮については、リスクがある方は、しっかり見ていくという体制には賛成である。（川名委員・岡部委員・坂木委員）
- 陽性者登録窓口への誘導が非常に大切である。電話でも対応ができるのは良いことである。陽性者登録窓口が届出対象外の方が登録するように広報をしっかりとすべき。（松田委員・金井委員）
- ワクチン接種の重症化予防の効果は明らかなので、積極的に推進すべきである。（光武委員・川名委員）
- コロナ患者を受け入れている病院以外の一般の医療機関についても、今後対応しなければいけなくなる可能性があるので、検討をしておくべきである。（光武委員）

【県の対応】

- 陽性者登録窓口について、しっかりと広報を行っていく。
- 今後の国の制度変更等を見据えて検討を行っていく。